

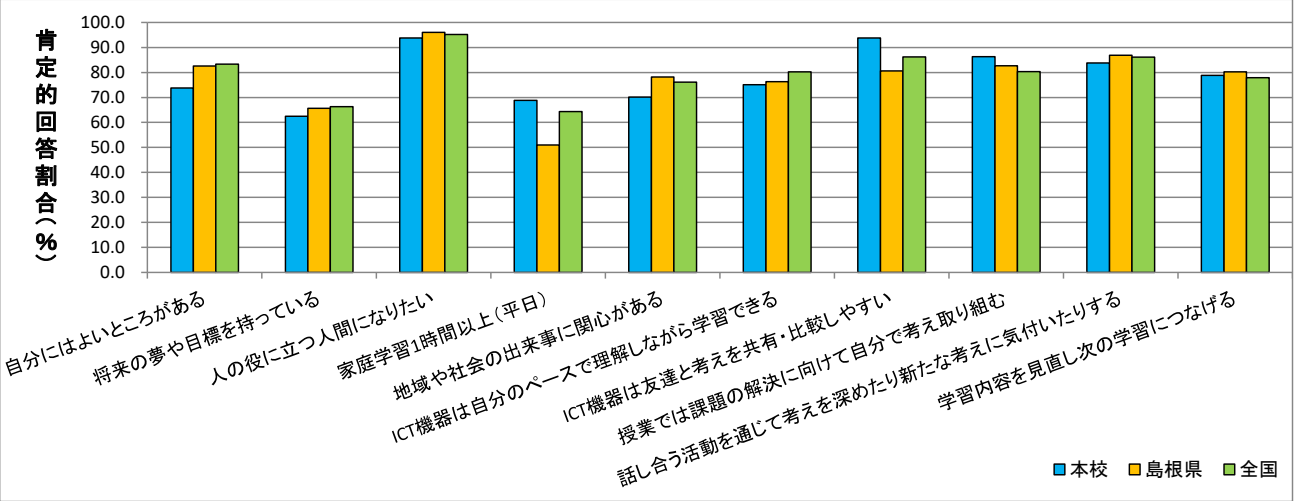
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○話し合いの中で資料の役割を理解し、自分の意見を書くことができている。 ●説明的な文章における具体と抽象の関係の理解や、要約することの理解が十分ではない。	・教材と関連させて、具体と抽象の関係を理解し、文章で書く活動を設定する。 ・説明的な文章を要約する活動を設定する。
数学	○事柄が成り立つ理由や数学的な表現を用いて説明できることは、良い成果が見られる。 ●一般的に平易な問題に対して、定着が図れていない。	・これまで通り、主体的な学びを促し、言葉に向き合い、生徒どうしの対話的な学びの中で、深い学びを促す。 ・ドリル学習を増やし、基礎学力の定着を図る。

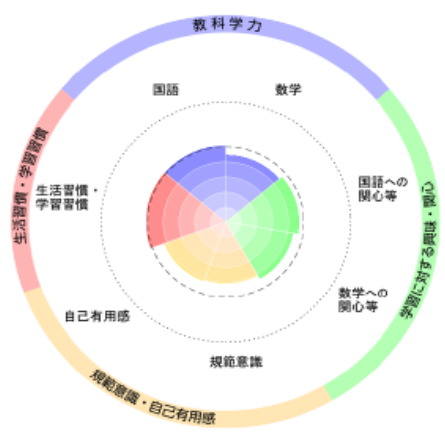
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○将来の夢や目標を持っている割合が高い。 ○土、日の休業日の学習量がこれまでより増えてきている。 ●学習以外で携帯電話やスマホを使う時間が多い。 ●自分に良いところがあると思っている割合が低く、良いところを他人が認めてくれていると思う割合も低い。	・携帯電話の使用時間について意識を高め、家の人と使用時間の約束をさせるようにする。 ・教師側が良いところを積極的に誉めることを増やすなど、自己肯定感を高める取り組みをする。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・地域行事にボランティアとして参加する機会が増えている。中学生に参加を期待する声は高まっているので、地域の一員として自分たちにできることは何かを考え、行動に移せる生徒の育成に取り組む。
- ・ICT機器の活用率は高くなってきている。更に効果的に活用していくために、情報収集や校内での実践研修等を充実させる。

【受検者数】
80 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。